

## のろのろ競争

### 【問題】

アラビアのある大金持ちが2人の息子を呼んで、こう言いました。

「砂漠<sup>さばく</sup>の真ん中のオアシスまで、きみたちの馬で競走しなさい。どちらか、勝ったほうの馬の持ち主<sup>ぬし</sup>に、私が死んだ後、私の全部の財産をあげることにしよう。ただし、競走といっても、ふつうの競走ではないよ。遅い方の馬が勝ちになる、のろのろ競走だ。私はオアシスに先に行って、待っている。どちらの馬が遅く着いたかがわかるようにね」

2人の息子はそれぞれの馬に乗って、のろのろ競走を始めました。しかし、砂漠の太陽はひじょうに暑くて、息子たちはとても疲れてしまいました。これでは、もう2人ともものろのろ競走を続けることはできません。

そのとき、そうした息子たちに出会った人が、息子たちからのろのろ競走の話聞いて、すばらしい考えを2人に話しました。

それを聞いた2人は、その考えをとりいれることにしました。そして、今度は、ふつうの競走のように馬をできるだけ速く走らせたのです。

さて、息子たちはどのような考えをとりいれたのでしょうか？

かいとう つぎ  
(解答は次のページ)

## 【解答】

息子たちは、自分たちの乗っていた馬をとりかえたのです。

のろのろ競走とは、「自分の馬が相手の馬よりも遅く着けば勝ち」という競走です。ということは、「相手の馬が自分の馬よりも速く着けば勝ち」なのですから、馬をとりかえて、それぞれが相手の馬に乗れば、ふつうの競走になるのです。

(595 字)

(2020.4 Written by Masami KADOKURA)

### <参考資料>

- ・多湖輝『頭の体操』第1集（光文社知恵の森文庫、2004年）



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.